

# 4. 長良川9.12豪雨災害から50年

## 岐阜県史上最悪の河川災害

昭和51年9月4日に太平洋で発生した台風17号は急速に発達し、9月8日には中心気圧が910hPaまで低下しました。同じころ、関東～近畿には停滞前線ができ、台風の湿った空気が流れ込んだことで前線の活動が長く強まりました。

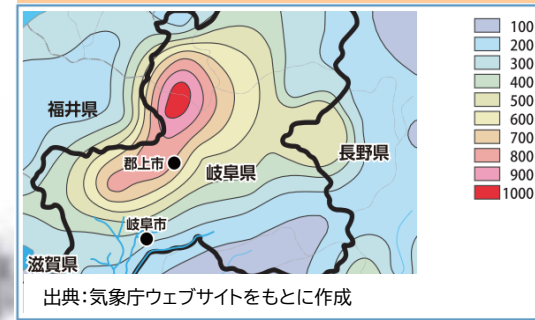
9月12日、台風に伴う豪雨により安八郡安八町大森の長良川右岸堤防が決壊。濁流は安八町・墨俣町全域を襲い、水防活動中の区長が死亡、3,536世帯が床上浸水などの被害を受けました。被害総額は約130億円に達し、岐阜県史上最悪の河川災害となりました。

## 平成30年7月豪雨と昭和51年9月豪雨の比較

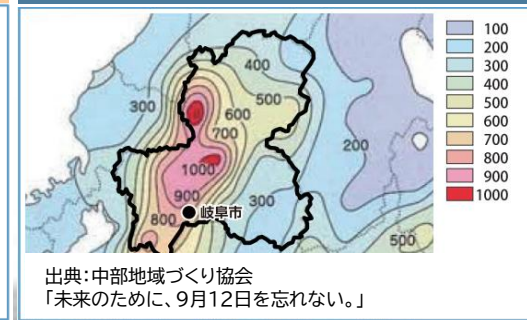
平成30年7月豪雨による長良川の出水は、水位の高い状態が長時間継続した点、その間に複数のピークを迎えた点で、昭和51年9月12日の豪雨に状況が酷似していました。

昭和51年9月豪雨と比較し、流域内の最大総雨量や流域平均雨量は同程度でしたが、岐阜市など中下流市街地の雨量は半分以下であったこと、また、これまでの河川整備により洪水時の水位が低減したこと、さらに、水防団等による迅速な応急対策や陸閉鎖により、木曾川上流河川事務所が管理する区間では、幸いにも氾濫被害は発生しませんでした。

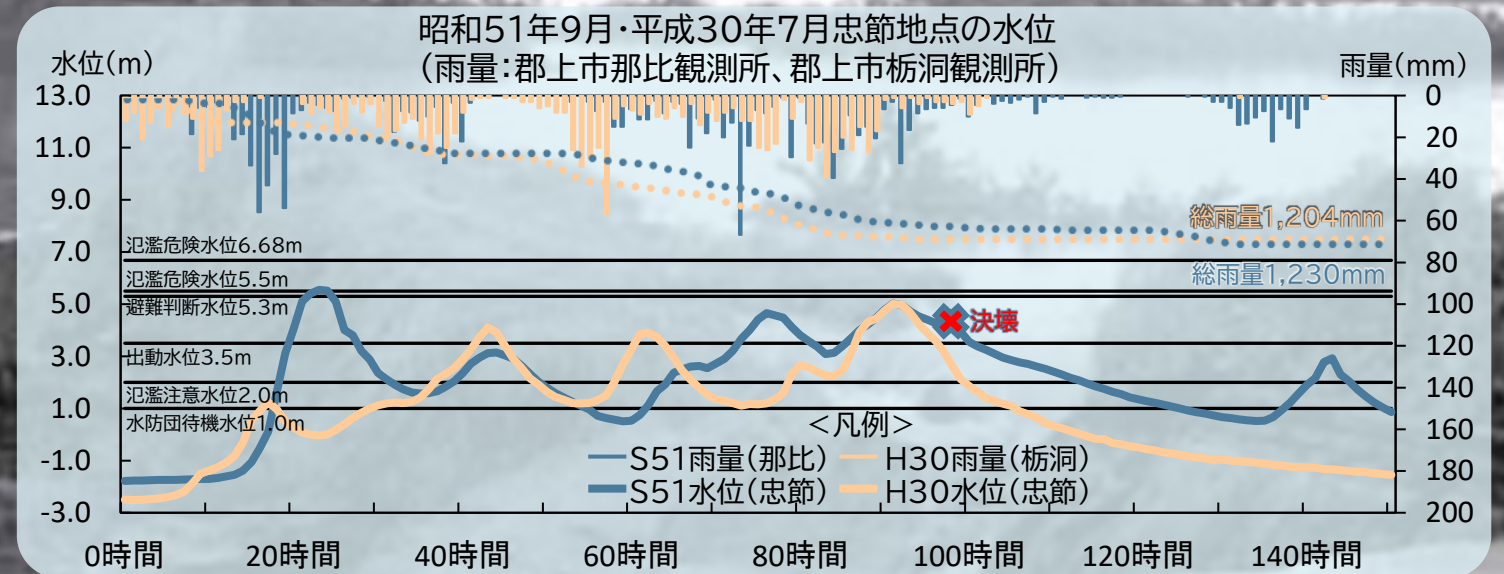
【平成30年7月豪雨】総雨量分布図



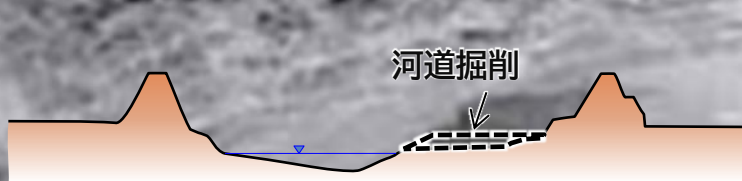
【昭和51年9月豪雨】総雨量分布図



	平成30年7月豪雨	昭和51年9月豪雨
期間	5日間 (7/4-8)	7日間 (9/8-14)
流域内の最大総雨量	1,204mm (郡上市白鳥町那比観測所)	1,230mm (郡上市八幡町那比観測所)
流域平均雨量	約705mm	約838mm
岐阜市忠節観測所	330mm	885mm
大垣市墨俣観測所	281mm	783mm



### 河川整備(河道掘削)



### 水防団の活躍



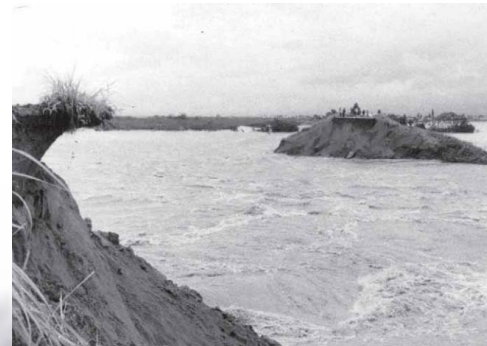
水防団が迅速に水防活動を実施し、堤防決壊のリスクを低減しました。



降りしきる雨の中、水と対決する水防団員 (岐阜新聞より提供)



破堤箇所を下流より望む (岐阜新聞より提供)



大きく決壊口を開けた長良川堤防 (岐阜新聞より提供)



一夜明けた決壊現場。ブロックなど詰め込んで復旧作業



必死の復旧作業 (岐阜新聞より提供)



道路は寸断され、行き場のなくなった車がひしめき合う (岐阜新聞より提供)



川と化した道路を腰までつかり箱をボードがわりに歩く市民



船不足で自分のゴムボードをもちだして救済物資を運ぶ



ヘリからも物資 墨俣小学校

## 長良川9.12豪雨災害50年関連イベント実施予定

～あの日から50年の節目～  
過去から学び、未来の防災について考える

- 長良川9.12豪雨災害シンポジウム
- リレーパネル展、災害記録映像の放映
- 特設サイト開設

木曾川上流河川事務所ウェブサイト  
<https://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/>

